

2023 年度 学校法人 三幸学園 仙台こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 津脇俊

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小川智子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・卒業生支援について

卒業生の状況確認については継続して行った。卒業後1年未満の卒業生を対象に単年度同窓会を開催し、卒業後でも相談しやすい環境づくりを行った。

・産学連携について

コロナ禍が明けたことにより、多くの案内をいただくことができた。生徒への告知は増やすことができたが、実際に参加する生徒が少なかった。

② 学校関係者評価委員会コメント

小川委員：同窓会へは、現場の管理職の人たちが参加を促してあげられたら良いと考えている。

新井さん：卒業生の就職先に同窓会の取り組み内容等を書面でご案内することは可能か。

茂呂委員：多くの人に発信することは可能なため、是非現場に案内を送っていただきたい。

新井さん：ボランティアに参加する生徒は増えているか。

小山田委員：ボランティアは増加傾向ではある。友達同士で参加する人が多く、現時点では大学生が多く参加している。

小川委員：コロナ禍が明け、ボランティア活動をする生徒が増えてきているが、学校の課題として参加している生徒もいるため必ずしも就職に繋がっているわけではないのが現状である。

茂呂委員：法人内でのボランティア参加やアルバイト枠が多い。現場を知っていただき最終的に入職に繋がっていききたい。

新井さん：ボランティアやアルバイトを積極的に取り組めるような環境づくりを行っていききたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・理念や目標の設定、周知までは適切であるが、その後の効果検証をする必要がある。

② 今後の改善方策

・理念に触れる機会は継続して設け、目標と現状の差を考える。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新 井 さ ん：企業理念の周知方法や浸透の仕方について、現場ではどのように行っているのか。

小山田委員：当園では月に1回会議の中で、理念や行動指針を確認している。大人数だと確認したいことが聞きにくいこともあるため、クラスで分かれるなど、少人数で確認し合っている。

小 川 委 員：直接、会長が企業理念に対して発信する場合もある。自分自身の成長を正しく可視化するのは困難だが、業務力と人間力については考課表を付けて確認することはできる。それをういて面談をすることで、客観的にも物事が把握できるようになる。

茂 呂 委 員：園長の教育理念をより理解していくため、パネルディスカッションやグループワークを全体で行なっている。そのため、園全体が教育理念に対して理解が深くなる。また園での教育方針を明確に開示し、教育理念と子どもたちの成長の繋がりを保護者にも周知している。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・今年度から導入された新人事制度の浸透と、これを活かした人材育成の仕組みづくりをする必要がある。
- ・学園独自の学習システム(SankoGate)の活用を定着させていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・新人事制度を教職員全体が理解するため、定期的な研修や振り返りを実施する。
- ・システムについての知識を教職員が学び続けること。また業務の取捨選択を行うこと。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新 井 さん：新人が入職するタイミング以外に、人事制度について定期的な研修などはあるか。

小山田委員：朝のミーティングや週1回の会議、掲示板で情報を伝達している。その他の方法として、上司から部下へと周知しているため、常に伝える機会がある。

小 川 委 員：等級によって求められる像が異なっているため、本人に合う内容を伝達している。それに対して、どのように業務を進めていくのかを考える時間を作り、人材育成へと繋げている。1度ですべてを把握させることは困難なため、本人がわかるように複数回に分けて明確に周知する。

茂 呂 委 員：年次に合わせた評価表で評価を行なっているため、上の者が自然と評価が高くなる仕組み作りはしていない。1年目の職員に関しては、月に1回面談をして適宜確認している。

伊 勢 さん：学園では、これまで1通りしかキャリア選択が無かったが、今年度から教職員自身が選べるようになっている。運営方法で注意している部分などあればお伺いしたい。

小 川 委 員：マネジメントと保育実務で得意不得意がある方もいる。そのため、自身でマネジメントか保育の専門分野かキャリアを選別できる人事制度を導入している。その結果、適性に合った業務をすることができるため、モチベーション向上にも繋がる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・授業アンケート結果を向上させ、授業の満足度を上げる必要がある。
- ・全教科での成績評価基準を明確化する。

② 今後の改善方策

- ・授業見学や研修など教員が学べる機会を設置する。
- ・生徒のニーズをリアルタイムで把握できる環境づくり、コミュニケーション量のアップ。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小山田委員：コミュニケーションをとるにあたり、挨拶などができない方が増えているのは感じる。まずは、新人に求めるのではなく、先輩からアクションに移すようにしている。例えば、休憩室などで上司や先輩からコミュニケーションを取り、歩み寄っている。「困ったら言ってね」の一言で安心感を作り、

気軽に話せる関係を築いている。

小 川 委 員：新人と近い年代の先輩から話し、コミュニケーションを取りやすい環境を築いている。新人が心を開いていきつかけを作るために、ハラスメント防止の対策もしていく必要がある。以前、教員間でわらべ歌を行なった際に、肌を触れ合うと安心感があつたようで、教員間にも取り入れるなど、仲間意識や安心感を得る機会を設けている。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率低減が出来ていない。
- ・入学後の目標喪失で退学する生徒が多い。

② 今後の改善方策

- ・保育の魅力を伝える機会を増やし、卒業生講話や動画などの施策を定期的に行っていく。
- ・1学年をクラス担任制、2・3学年を学年担任制に変更し生徒の変化に気づきやすい仕組みづくりを行う。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

相 澤 さん：体験実習2日間を通して現場の雰囲気を感じ、モチベーションに繋がると考え実施していたが、実際は現場の先生を目の当たりにして、「できない」と感じてしまった生徒が多かった。

小山田委員：求人紹介会社から聞いた話だが、1ヵ月働いて目標喪失する方もいる。

新 井 さん：新入職員のこういった行動を気に掛けているか。

小山田委員：挨拶や表情で判断していて、気になる職員に対しては声をかけるよう意識している。休憩時間を使って、何気ない会話から悩みを引き出すように話している。

小 川 委 員：1年生は学年担当制からクラス担任制度に戻したことで、担任の負担が増えると思うが、減らすための行動はあるのか。

相 澤 さん：担任が責任を負うことや負担が増えることは前提。しかし、担任は自身のクラスも持つことによりモチベーションが向上し、今年度は必死になってクラス運営を行なっている。生徒への教育と指導は例年以上に徹底するようにしている。ただ、新人に関してはOJT担当者を付けサポートをしているため、業務や、精神的負担は軽減できるように努めている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・カウンセラーとの連携強化はできたが、生徒の多様化に伴い対応が難しい生徒が増えている。

② 今後の改善方策

・カウンセリング後の対応方法の強化。
・保護者を巻き込んだカウンセリング。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新 井 さん：現場では保護者と悩みを共有する機会は何か設けているのか。

茂 呂 委員：内部、外部どちらに対しても支援活動をしている。その際に、個人面談の機会を設けている。また、園見学の際に保護者から相談を受ける場合もある。このような支援により、入園するときの不安感を取り除くことが可能である。

小 川 委員：当園ではクラス担任が懇談会や個人面談をする。担任に話せない場合は、主任と話す機会を設け、直接担任に伝えたほうが良いものにおいては、保護者から承諾を得て伝達をしている。

相 澤 さん：クラス担任からなのか主任からなのかを選別する場合はどういったときか。

小 川 委員：担任に対する不安など、主任に話したい内容がある時は主任側に相談が来る。基本的に担任に話す方が多い。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・ボランティア参加者やインターンシップの実施者が少なかった。

② 今後の改善方策

・ボランティアやインターンシップ受け入れの連絡をいただいた場合は、生徒へ積極的に案内するとともに、メリットも併せて案内する。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新 井 さ ん:ボランティア募集をする際に工夫していることなどはあるか。

茂 呂 委 員:毎年キャンプのボランティアを募集しているが、担当者から周知する学校の先生に説明会を行っている。参加する意義を伝えてもらうことで周知した際に説得力がある。説明会后、日々振り返りを全員で行い、より多くの生徒が参加するよう、説明会の理解を深めている。

小山田委員:大学生は目指す像が確立しており、方向性が明確であるため、参加する意味を自分自身でわかっている。しかし、子どもたちと遊んでみたいという気持ちで気軽に参加してもらうなど参加のハードルを低くしても良いと感じる。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・希望分野がなかなか決められない高校生や保育分野に進む高校生が減少傾向にあるため、さらなる職業魅力の発信をしていく必要がある。

② 今後の改善方策

・進路活動の早期化に伴い、まだ分野決定していない高校 1・2 年生対象の説明会を実施する。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新 井 さん：現場での人材確保はできているか。また人材の増加、減少等変化はあるか。

茂 呂 委 員：業界全体で見ると、新卒も中途採用も減少している。そのため、派遣会社からの紹介で集めないと入職まで進まず、人材を確保できない。

小 川 委 員：今年度から採用は減っているが、中途採用は行なっておらず、新卒のみの採用をしている。中途採用の方を含めないと人手不足が目立つ。

小山田委員：全体的に減っている。資格がない方が来る傾向もある。新卒も 2 次募集と 3 次募集で人材が見つかった。また、デュアル教育の生徒が 3 名参加している。

新 井 さん：募集活動を進めていくなかで、決めきれないケースが増加しているように感じるが現場ではどのような感じているか。

小 川 委 員：入職に繋がらないことが増えているため、人材確保ができない傾向である。

茂 呂 委 員：他園も人材不足である。そのため、園の利点をより開示しないと入職しづらいことが増加している。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

・なし

【予算・収支計画】

・なし

【会計監査】

・なし

【財務情報の公開】

・なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

・今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

・なし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・教職員全員が法令について知っていること、正しい理解をしていることが必要である。
- ・多くの個人情報扱う学校として、全教職員が自覚と緊張感をもって個人情報の扱いについて理解する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・法令について定期的な研修を行い、常に緊張感をもって業務遂行ができるようにする。
- ・個人情報の取り扱いについて正しい管理方法学ぶ機会を設ける。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新井さん：現場では情報の取り扱いはどうにしているか。

小川委員：USBの使用自体を禁止している。そのため、情報の持ち出しは阻止できている。また、園のパソコンで全て管理するようにしていて、メールも制限がかけられる機能があるため、在宅での仕事はできないようになっている。

小山田委員：個別記録のような個人情報は事務室からの持ち出しを禁止している。また、パソコン使用時に離席する際は、画面を閉じてからデスクを離れるため、外部の流出を阻止できている。

茂呂委員：パソコンだけではなくスマートフォンでも企業内のデータが取り扱いできてしまう。そのため、現在限定したアカウントではないと園外で使えないシステムを使用する方針である。園長は緊急連絡などあるためそこは例外にしている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・教員主導ではないと、生徒がイベントに向けて行動を起こすことが出来なかった。

② 今後の改善方策

・少人数制のグループを設けコミュニケーションを取りやすくし、生徒が考えることのできる環境を整える。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新 井 さん：現場では若手が自ら取り組むためにどういった声掛けをしているか。

小山田委員：若手の近くにおいて声掛けを積極的に行ない、その際には自らの失敗体験を話すようにして親近感を抱かせ、チャレンジ精神を養うようにしている。

小 川 委 員：中間層の先生方が盛り上げていただけると若者も接しやすいと思う。新卒の職員の表情や感情がわかりづらいところがあり、失敗を嫌う傾向がある。外部の研修の際に、テーマを「失敗から学ぶ」として実習中の失敗したことを全員で振り返る時間をとっていた。失敗から学ぶ経験も大切だと思う。

小山田委員：卒業生の講演会などで、失敗した体験談を話してもらえると、生徒は自分でも保育士になれると自信に繋がるため、是非開催していただきたい。

茂 呂 委 員：「失敗＝ダメ」ではなく、振り返りを園長や主任と丁寧に行い教育方法を学んでいく必要がある。休憩時に新人の職員に話しかけたほうが良いが、コミュニケーションのタイミングを見極める必要がある。そのため、慎重にやっていかなければリスクを伴う。また、新人研修の際に、新人が業務を通してやっていて良いところや感謝をムービーにまとめ公開する機会がある。先輩が後輩に向け感謝などを伝える機会があると、自信にも繋がりモチベーション向上が見られた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・今回の学校関係者評価委員会の結果から、全体として保育の魅力を伝達していくことが課題としてあげられた。

・卒業生の支援に関しては、同窓会などを通して継続して行なっていき、相談の場として母校があることを認識してもらえるように対策をしていく。

・ボランティア活動などは、参加する意義をしっかりと伝え、参加率を上げていくことが必要。ボランティアやイベントの実施は園や生徒にとって良い影響がある為、今後も継続して案内をしていく。

・今後もより良い人材育成や社会貢献が出来るよう現場を意識した教育を取り組んでいくことが重要である。